

目標に関する評価シート 2025年度（令和7年度）

指標		現況		実績値 （2025 年度）		（備考）		目標値 （2028 年度）	評価※
交通空白地の解消率		88（％）	⇒	8 8（％）	市街化区域のうち、駅・バス停勢圏がカバーしている面積の割合		⇒	88（％）	毎年
タクシーの市内配車台数		63（台）	⇒	64（台）			⇒	63（台）	毎年
（参考） 阪急バス長岡京線の収支状況		2023 年度の収支状況 を「1」として	⇒	1. 03			⇒	1.3	毎年
自動車分担率	通勤・ 通学	25.2（％）	⇒	-	参考 市内で発生する移動の代表交通手段 自動車の運転手区分 資料：近畿圏パーソントリップ調査(2021年)	⇒	23.0（％）	最終年次	
		【うち、送迎】4.7（％）	⇒	-		⇒	3.0（％）		
	買物	45.1（％）	⇒	-		⇒	41.0（％）		
		【うち、送迎】9.8（％）	⇒	-		⇒	7.0（％）		
	通院	34.6（％）	⇒	-		⇒	31.0（％）		
		【うち、送迎】7.4（％）	⇒	-		⇒	5.0（％）		
免許返納した高齢者に占める日常的に運転していた人の割合		47（％）	⇒	42（％）	申請者：252 人／うち日常的に運転していた：106 人		⇒	50（％）	毎年
グランドパスの保有者数		333（人）	⇒	343（人）	令和 6 年 10 月に値上げ 令和 7 年 8 月 31 日でグランドパス 65 販売終了（343 人のうち、20 人）		⇒	500（人）	毎年
タクシー乗継事業の利用件数		2,003（件/年）	⇒	3,588（件/年）	グランドパス保有者対象		⇒	3,500（件/年）	毎年
自転車ネットワーク優先路線整備状況		7.7（km）	⇒	13.1（km）			⇒	18（km）	毎年
鉄道駅の利用者数(市内3駅)		約 37,000（人/日）	⇒	約 42,000（人/日）	3 駅ともに増加傾向		⇒	約 37,000（人/日）	毎年
路線バスの利用者数		150（万人/年）	⇒	約 155（万人/年）	昨年度より微増		⇒	150（万人/年）	毎年
コミュニティバス等の利用者数									
（はっぴいバス）		約 10（人/便）	⇒	13. 9（人/便）	令和 7 年度利用者数：87,661 人		⇒	約 11（人/便）	毎年
（東部バス）		約 7（人/便）	⇒	9. 5（人/便）	順調に推移		⇒	約 10（人/便）	
タクシーの利用者数		47（万人/年）	⇒	約 60（万人/年）	昨年度より大きく増		⇒	47（万人/年）	毎年

※ 進捗状況の評価時期

施策の取組状況に関する評価シート 2025 年度（令和 7 年度）

基本方針	施策の柱	施策	取組状況
基本方針 1 市民の移動を支える交通システムの維持・構築	幹線ネットワークの維持	- 既存の幹線公共交通軸の維持 - 相互の連携による移動環境の確保（乗り継ぎ利便性の向上） - 安全・快適な移動を支えるバス・タクシー利用環境の整備 【新規】地域公共交通の維持・確保へ向けた財源の確保（基金の設置）	- 市営駐車場事業の余剰金を活用し、公共交通の維持・確保の取り組みの財源とするため、公共交通基金を新設。 - 公共交通基金を財源として、運転士確保助成金を創設（令和 7 年度交付実績：バス 2 名、タクシー 6 名）
	既存コミュニティバスの運行	既存コミュニティバス等の適切な運行	令和 7 年 3 月から運行間隔を変更
	タクシーサービスによる移動ニーズへの対応	- 需要に応じた利用支援制度の実施 - バスとタクシーの相乗的な利便性向上を図るタクシー利用環境の整備	部会においてタクシーを活用した施策の事例研究
基本方針 2 自家用車に頼らず、歩いて暮らせる公共交通中心のまちづくり	駅周辺まちづくりとの連携	長岡天神駅周辺整備と連携した地域公共交通の利用環境の向上	阪急長岡天神駅暫定ロータリーの整備へ向け事業推進中（令和 8 年 12 月オープン予定）
	自転車利用環境整備との連携	自家用車に頼らないライフスタイルを支える自転車の利用環境整備	各道路管理者において、自転車ネットワーク路線の整備を推進
	徒歩・自転車と公共交通利用を促すソフト施策の推進	- 高齢者の免許返納支援の実施 【拡充】通学時における地域公共交通の利用支援の実施 【新規】地域ポイントの付与による利用の促進	- 免許証自主返納支援事業を継続して実施（令和 7 年度実績：252 件） - 地域のケアマネジャーが集まる会議の場で、運転免許証自主返納支援事業を案内 - 定期券等購入補助事業を継続して実施（令和 7 年度実績：606 件（GP）、89 件（通学）） - 公共交通基金を財源として、バス通学定期の購入補助金を拡充（令和 6 年度申請 32 人→令和 7 年度申請 54 人） - 公共交通基金を財源として、バス利用者にガラシャ Pay ポイントを付与するキャンペーンを実施（令和 7 年度実績：567 人）
基本方針 3 公共交通をみんなで活用し、維持する体制の構築	多様な主体で維持・活性化する仕組みづくりと意識の醸成	モビリティ・マネジメントの実践を通じた地域公共交通への理解醸成	- きょうとエコサマー、はっぴいバス夏休み/冬休み小学生無料乗車を実施 - 長岡第四、六、七小学校の放課後児童クラブにおいて、バスの乗り方教室を実施 - 阪急バス大山崎営業所での中学生職場体験の受入れ
		- 主体の枠を超えた担い手確保の支援 - 拠点施設との連携 - 需要に応じたサービスの継続的な見直し	- 京都済生会病院利用者の運賃無料（病院負担）を継続実施（令和 7 年度実績：20,539 人） 「健幸すぽっとのびのび苑（令和 6 年 11 月オープン）」の送迎バス「おでかけいけるん号」運行中
	既存の枠組みにとらわれない地域公共交通のあり方検討	新技術等を活用した地域公共交通の利便性向上	部会においてタクシーを活用した施策の事例研究

太字：特に重要と位置付ける